

海外からの民間投資の便益と費用：コメント

M. C. ケンプ

訳者 武内憲治・仁平耕一

1. ドナルド・マクドウガル卿は、借入国の限界純便益がゼロになる以前の点で資本輸入が止まってしまう事を示した。¹⁾ 殊に、もし資本輸入が邪魔されず、完全競争が一般に行き亘っており、規模に関して収益が不変であり、外部経済と課税が無く、かつ交易条件が資本移動とは独立であるならば、此の可能性は実現されるであろう。²⁾

2. 仮に、マクドウガルの条件が満たされているとしよう。借入国は資本輸入を、多分、補助金を使って、奨励することを進めるべきであろうか？

最初一読すると、それが彼の分析の明白な含意の様に見える。しかし、私は、自己の利益を追求する借入国は外国人所有資本の全収益に税を掛けるべきであり、その含意として、資本の流入を抑制するべきであると主張する。その様な税は、よりお馴染みの最適関税の資本勘定における対応物である。

3. 各国は単一の商品を生産しており、その商品は各国で同じであると仮定しよう。³⁾ 更に、貸付国は物的に均質の資本ストック、例えば、一種類の応用自在の機械から成る資本ストックを有していると仮定しよう。⁴⁾ 此のストックの一部は海外に投資されており、残りは国内に投資されている。借入国の立場から、自由市場での外国投資と最適外国投資を比較することが望ましい。

各国の生産は機械および或る他の生産要素の助けを得て行われるが、後

者は全て非弾力的な供給状態にある。したがって、その貸付国の生産関数は次の様に書く事が出来る。

$$f_1(K_1 - K),$$

但し、 K_1 は貸付国の総資本ストックであり、 K は海外へ送られた資本の量である。同じく、借り入れ国の生産関数は次の様に書く事が出来る。

$$f_2(K_2 + K),$$

但し、 K_2 は借入国所有の資本ストックである。

競争的均衡では、資本移動に対する人為的な抑制（あるいは、奨励）が無ければ、世界の資本ストックは、投資の限界収益が二国間で均等になる様に分配される、すなわち、

$$f_1' = pf_2',$$

但し、 p は貸付国の交易条件であり、ダッシュ記号は微分を表す。外国収益の総額は Kf_2' である。

4. では、今、借入国の政府が、外国資本の稼ぎに対して $100t_2\%$ の従価率で税を掛ける事に依って、その国の所得を極大化するとしよう。 $(t_2$ の符号についてはここでは前もって断定せずに、我々はその税というのは実際には補助金に転じるかも知れないと言う事を容認する。)

外国の税引後の収益は $K(1 - t_2)f_2'$ であり、借入国の純所得は

$$f_2' - K(1 - t_2)f_2'$$

そこで、問題は、次の如く修正された限界条件の下に、上の式を t_2 について極大化することである。

$$f_1' = p(1 - t_2)f_2'$$

極大化する t_2 というのは容易に次の如く見いだされる。

$$t_2 = \frac{-\mu_1 \epsilon_1}{1 - \mu_1 \epsilon_1}$$

但し、 $\mu_1 = \frac{K}{K_1 - K}$ は貸出国の外国投資の国内投資に対する比率であり、

$\epsilon_1 = (K_1 - K) \frac{f_1'}{f_1}$ は貸出国における資本の限界生産物曲線の弾力性である (すなわち、その国の資本の需要の弾力性の逆数である)。

$\mu_1 \geq 0$, かつ $\epsilon_1 < 0$ であるので, $t_1 \geq 0$ となる。すなわち, 最適投資の状態においては, 外国の収益は課税されるのであって, 補助を受けるのではない。貸出国が借入国の資本にホンの僅かしか貢献しないと言う極限的ケースでは, $\mu_1 = 0$ で, 最適税はゼロである。

5. 同様の結論は図に依っても到達され得る。添付された図において, 世界の資本ストックが水平軸に沿って表示されている。貸出国における資本の限界生産物曲線は, M_1M_1 である。借入国におけるそれは原点を O_2 として M_2M_2 で示されている。競争的均衡では, 外国の収益に対する課税が無ければ, 貸出国は海外に AO_2 だけ投資する。しかしながら, もし, t_2 の税が課せられたならば, 外国投資は BO_2 に減少して, 二つの限界生産物の

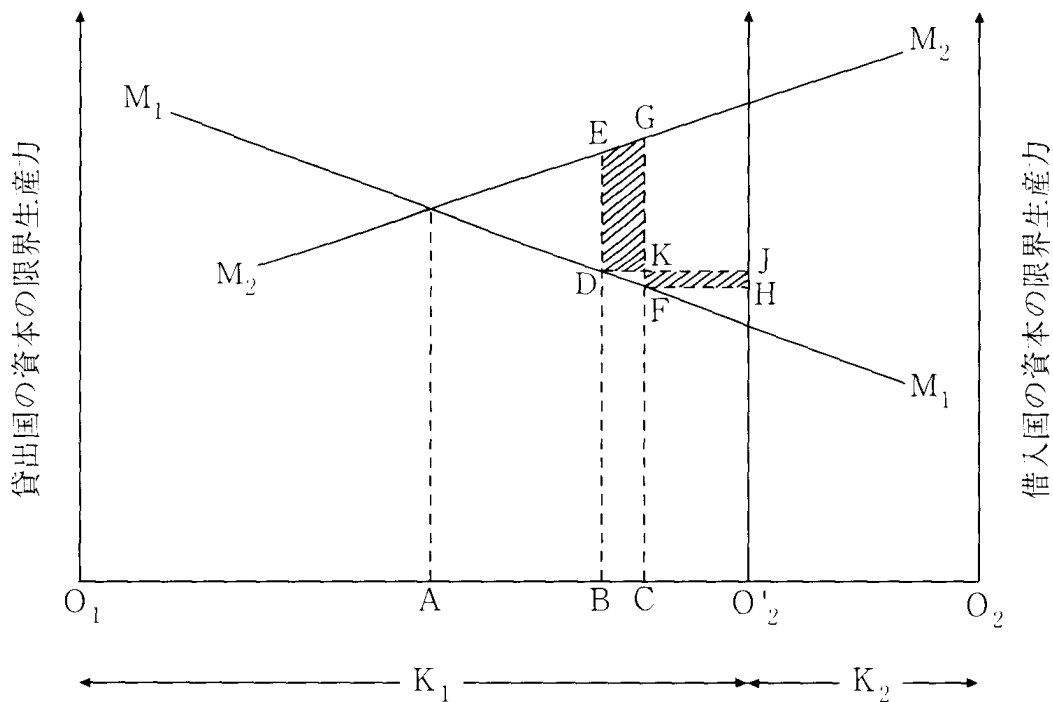


図 1

間には $DE (= t_2 f_2')$ のギャップが生じる。さて、 t_2 が (t_2+dt_2) へと僅かに増やされ、外国投資が CO_2 へと更に減らされて、ギャップは FG に拡大したとしよう。明らかに、外国の純収益は、 $BDJO_2$ から $CFHO_2$ へと減少する。他方、借入国の所得は二つの相反する方向への圧力を受ける事になる。その所得は $FKJH (= -Kf_1' \cdot dk)$ だけ増加するが、他方 $DEGK (= -t_2 f_2' \cdot dK)$ だけ減少する。最適状態では、これらの二つの圧力はバランスする ($t_2 f_2' = -Kf_1'$, すなわち、簡単な計算を行えば、 $t_2 = \frac{-\mu_1 \varepsilon_1}{1-\mu_1 \varepsilon_1}$ となる)。

マレイ・C・ケンプ

ニュー・サウス・ウェールズ大学にて

- 注 1) G. D. A. MacDougall, "The Benefits and Costs of Private Investment from Abroad: a Theoretical Approach," *Economic Record*, Vol. XXXVI (March 1960), pp. 13-35, reprinted in Bulletin of the Oxford University Institute of Statistics, Vol. 22, (August 1960), pp. 187-212.
- 2) マクドウガル, 前掲論文, 第2節。
- 3) もし全ての商品が貿易され、もし交易条件が不変であるとする、そこでは単一の商品しか存在しないかの如く考えて議論を進めて差し支えないであろう。
- 4) 此の前提の正当化の根拠は、the *Economic Record* の此の号に発表されている私の論文 "Foreign Investment and the National Advantage" に提供されている。

訳者あとがき

此処に訳出したのは、Murray C. Kemp, "The Benefits and Costs of Private Investment from Abroad: Comment," *Economic Record*, vol. 36, no.81, March 1962, pp.108-10 である。著作権所有者であるオーストラリア経済学会より日本語への翻訳を許可された事を記して感謝する。

この短い論文はマクドウガルの論文に対するコメントとして発表された

ものである。マクドウガルの論文と同時に訳出する理由は、現在、マクドウガル・モデルの図表的説明として広く使われているグラフは実はケンプがこの論文で初めて公表したものだという事が分かったからである。